

平成 30 年 6 月 7 日現在

機関番号：14501

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K13070

研究課題名(和文) トランスナショナルなアソシエーション活動の可能性 フェアトレードによる構造変革

研究課題名(英文) Possibility of Transnational Association Movement- Fair Trade

研究代表者

太田 和宏(Ota, Kazuhiro)

神戸大学・人間発達環境学研究科・准教授

研究者番号：00273748

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：フェアトレード生産者を組織するフィリピンでは、住民・地域組織と生活改善、社会変革といった理念をビジネスを通じて実現しようとする試みが続けられている。公正さ、社会正義、生態系保全、食や生活の安全といった一般市場では軽視されがちな価値を商品に付与することによって新しい消費者、市場の形成をめざしている。一方で一般市場での生き残りをかけた厳しい課題も抱えている。

他方、消費側である日本では消費者意識や市場の在り方、また途上国との関係を変えることを目指しつつ、地域復興、環境保全、有機農業等の連携を図りながら取り組んでいる。フェアトレードタウン運動は、行政をも巻き込む新しい取り組みである。

研究成果の概要(英文)：Fairtrade producer NGOs and companies are doing business in the market pursuing their objectives: community organization, improvement of people's livelihood, social transformaton. They attempt to add on commodities extra values such as fairness, justice, ecology, food safety and life satisfaction, which are usually forgotten in the conventional market. On the other hand, they struggle to survive market competitiveness.

The recent Japan's fairtrade movement encompass community revitalization, ecogology, organic agriculture to expand its influence. Fairtrade town movement has new possibility to popularize fairtrade by approaching local administrations and politician.

Connection and solidairty of local activities between producing countries and consumer countries has new possibility and orientation.

研究分野：開発学

キーワード：フェアトレード トランスナショナル アソシエーション

1. 研究開始当初の背景

グローバル化が進行する中で、民族や国境を越えたトランスナショナルな交流が経済分野のみならず社会運動分野においても活発になってきた。貧困や格差、ジェンダー、暴力、病理、環境破壊、経済崩壊など1国内で対応しきれない社会問題も深刻さを増してきた。本研究ではそうした諸問題の解決や克服を目指して政治社会構造をも視野に入れながら自主的な活動を展開する「アソシエーション」に着目をした。ここでアソシエーションとは単なる自主的な集団、個別課題解決を目的とする運動体を超えて、社会の方向性を探りつつ諸問題に取り組む自主的団体及び運動体を指す。

グローバル化の進展と政治的民主化の流れの中で、その担い手となる市民社会、社会運動の役割がこれまで多く研究されてきた。特にグローバル・サウスを視野に入れた現代のアソシエーション分析では、NGO や市民団体が社会正義の実現や政治的民主化に果たす役割が肯定的に評価されてきた。

申請者はフィリピンなど途上国の社会政策や住民参加型開発への草の根組織の関与の分析を通じて次のことを明らかにしてきた。市民社会組織が民主化や社会進歩の担い手になるか否はそれらが埋め込まれた社会構造によること、アソシエーション活動の最重要な役割は意思決定や政治制度を直接変えることではなく社会変容につながる言説闘争 discursive struggle への関与であること、である。グローバル化の下、国家形態が変容し、民主主義が普及するなかで国境を越えたアソシエーション活動の益々重要となってきた。

本研究では、その中でもグローバル化による市場活動の活発化に伴い急速に広まってきた「フェアトレード」に着目をした。フェアトレードは、貧困・格差、労働問題、環境保全、国際貿易構造などの複数の課題に同時に取り組むのみならず、市場における経済活動、つまりこれまで社会運動ではあまり重視されてこなかった生産と流通活動を戦略の重要な柱に据えている点で新しい可能性を秘めている。またフェアトレードは途上国と先進国を社会理念のみならず市場行為を通じて繋ぐ役割を果たし、トランスナショナルなアソシエーション活動のもつ社会変革への可能性を秘めている。フェアトレードは途上国と先進国の主体がそれぞれ地域に根差した生産・消費活動を通じて、製品のみならず情報、社会的理念を交換する行為である点で他の社会運動にみられない特徴を有するからである。

本研究では主としてフェアトレード活動の活発なフィリピンにおける実態および日本の中での取り組みを取り上げる中で、現在の課題と可能背について考察をすることを目的とした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、国境や社会条件の差異を超えて結びつきながら展開する新しいアソシエーション活動の役割と可能性についてフェアトレードに焦点を当てて考察することにある。アソシエーション活動の有効性は構造的課題との斬り結びと、言説活動・言説闘争による新しい社会倫理の創出にあるとの視点に立って、先進国と途上国の異なる社会をつなぐフェアトレードの実践に着目して検討するものである。グローバル社会における市民運動の融合とそれがもたらす可能性及びその条件について考察する。調査はフェアトレードを含む市民運動、アソシエーション活動が活発に展開されるフィリピンにおける展開状況の把握と、フェアトレードの消費側に位置づけられる日本等先進国における新しい活動形態について行う。特に日本では近年、単にフェアトレード製品を普及するだけではなく、政治家や自治体、一般企業、地域に根差した社会活動と連携をしながら作り上げるフェアトレード・タウンの展開状況や、その課題について明らかにする。それらを通じて、生産社会と消費社会をつなぐ両者の関係性と相互作用、さらにトランスナショナルなアソシエーション活動の在り方について検討をしていく。

3. 研究の方法

本研究は社会運動、市民運動論の理論的考察にむけた実証研究である。従ってフェアトレード活動に関わる実践家や組織に対する面接調査などが主たる手法となる。そこでは組織者である NGO 職員、直接生産者、そして消費者、市民と立場の違いが異なる評価を下すであろうことに留意をする。言説の変容に関しては当事者らの評価に加え、世論調査、実際の生産消費行動の観察等を前提として把握に努める。さらに現状だけでなく今後の新しい方向性を探る上では異なる観点との意見交換が重要となる。この分野に関わるフィリピン、米国の研究者からの調査協力と、密な意見交換、議論をしながら考察を進め知見を得てゆく。現地調査では可能な限り共同行動をしうるよう調整をはかる。

本研究は、フェアトレードの生産拠点フィリピン、消費社会日本の双方において関係者、関連組織から収集する情報をもとに考察を行う。それぞれの調査のポイントは以下である。まず生産国フィリピンでは、第一に生産者の生産・流通活動がいかなる背景と構造の中に組み込まれ、またそれに対してどのような対抗的手段を実践しているのかがポイントになる。単に市場で販売しうる物を生産するだけではなくそれを通じて何を実現しようとしているのかを丹念に見ていくことが社会運動としてのフェアトレードの可能性を探るうえで重要である。さらにフェアトレー

ドは途上国生産者が先進国消費者に商品を販売して生活を維持する活動とされているが、それはかつて従属学派が批判した従属構造に近似する。実際、欧州経済危機による消費市場の縮小がフェアトレード生産者組織にも負の影響を多くもたらした。こうした状況を克服するために途上国における国内市場の創出、生産工程の農村部への分権化など、生産者がより自立できるシステムの模索や新しい取り組みが始まっている。生産国、製品供給地という単純な構造を克服し、より自律的な活動をめざしつつある。その実態を拾い上げていくことが第二のポイントである。さらにこうした新しい取り組みが途上国の中での言説状況にいかなるインパクトを与えてきているのかが重要である。フィリピンでフェアトレードの草分け的存在でもあり、また取引規模の点からも群を抜く Alter Trade Philippines、マニラで小生産者らの工芸品を扱う SAFRUDI、セブを拠点に農産物、食品を中心に生産をし、またコミュニティ組織活動に力を入れる SPFTC を中心に情報を収集する。

消費社会、日本では第一にフェアトレードがどれほど社会や市民に浸透しているのかが一つのポイントである。ただし、購買者が増え、フェアトレード市場が拡大するだけであればニッチ・ビジネスの成功というだけで終わる。組織者がそこにいかなるオルタナティブな社会構想、少なくとも価値を創出しているのかがポイントになる。こうした点をフェアトレード組織、経営体などへの面接調査によって行う。NGO や市民団体は社会的価値の実現に向けて活動に取り組む一方、小売業者などはむしろ利潤獲得の手段としてフェアトレードを位置づける。こうした姿勢の違いがもたらす効果についても検討する。第二の観点は、フェアトレード・タウン運動の普及によって単に途上国支援のみならず、消費者の住む社会や地域を運営、変革していこうとする契機となっていることを検討する。近年、

フェアトレードの理念に基づいて自らの地域社会を見直していく視点が強調されるようになってきた。先進国社会が途上国社会を支援するという発想から、理念を共有して異なる環境の中での共通の目標の実現に取り組もうとする姿勢へと大きな質的転換を経験しつつある。日本での先駆的な取り組みとして熊本市（2013年に初のフェアトレード・タウン宣言採択）や名古屋市、逗子市、浜松市などが宣言採択に取り組む。こうした実態について関係者から情報を得ることによって検討をする。

米国では社会の中で市場の果たす役割が日本に比べてもはるかに大きく、また一方で、市民社会活動、オルタナティブ志向もより強い。そもそもフェアトレード活動の起源も米国にある。米国ではスターバックスなど大手ビジネスがフェアトレードに積極的に取

り組む一方で、オルタナティブなグローバル社会を強く志向するフェアトレード組織もあり、いわば両極が混在している。日本には見られない状況である。こうした背景を持つ米国において、フェアトレードの普及状況、またそれを需要する人々や社会の意識がどれほど影響を受けているのかについて、情報を収集し考察する。

4. 研究成果

フェアトレード生産者を組織するフィリピンでは、住民・地域組織と生活改善、社会変革といった理念を市場ビジネスを通じて実現しようとする試みが続けられている。公正さ、社会正義、生態系保全、食や生活の安全といった一般市場では軽視されがちな価値を商品に付与することによって新しい消費者、市場の形成をめざしている。一方で一般市場での生き残りをかけた厳しい課題も抱えている。

フィリピンの3つの団体、Alter Trade Philippines、SAFRUD、SPFTCへの訪問聞き取り調査を実施した。Alter Trade Philippinesは1980年代のフィリピン政治経済混乱期以来つちかした社会変革、地域コミュニティの自主運営、生産者主体運営等の理念を保持、維持しつつ、日本のカウンターパートオルタナティブトレードジャパン（ALJ）との連携を強めながら着実に生産販売の基盤を築いてきた。今では地域ビジネスとして確固たる地位を占めている。その要諦は、生産者中心主義を強く維持してきたこと、日本はじめ国外の諸団体との協力関係を持ちながらも、フィリピン人自身が意思決定、運営過程の中心にあったことがあげられる。SAFRUDIの事例は、マニラ近辺の女性団体や小生産団体を組織し、飾りつけ、家庭菜園装飾品などの工芸品を主として米国の取引業者と提携をして販売路を確保している。SAFRUDIは幅広い社会運動で培ってきたネットワークを利用し、諸団体の連携と相互扶助を重視している点で特徴的である。また米国のソーシャルビジネス系業者と安定して取引を確立している点で、フェアトレード活動の定着を実現している。セブのSPFTCは小作人の土地獲得を目的として農民運動から派生してできたフェアトレード団体である。現在では、ココナツ、カラマンシ、モリンガ、ウコンなど土地の農産品の加工品を主力製品として活動を展開している。農民団体から出発した経緯にも裏打ちされた社会運動の経験と蓄積が十分に生かされたコミュニティ活動を展開している。SPFTCの特徴は、農民、農村を組織するだけでなく、地方自治体等行政機構との関係づくりにも取り組み公的資金を利用して、各生産農村に農作物加工場を設置して、生産コミュニティにできるだけ利益の落ちるシステムを開発している（生産分権化プログラム）。一方、イタリア、韓国、日本など海外の取引パート

ナーを開拓しつつ、規模が大きくないうえ安定しないため、売り上げにおいては課題を抱える。それを克服するために、フィリピン国内におけるフェアトレード市場の開拓に取り組む点は今後大きな可能性を秘めているといえる。

消費側である日本におけるフェアトレードの活動については、関西圏におけるフェアトレード諸団体につき情報収集をした。市場取引での継続性を維持することは容易なことではなく、多くの団体が経営上の課題を抱える状況がある。一方、フェアトレードの意義や意味づけを前面に出さずに、製品の質や消費者の嗜好を敏感に販売戦略に取り入れる団体は安定的な運営を続けている。一方全般的に、日本のフェアトレードは現地生産者への直接のコミットメントを重視して、生産者を取り巻く社会の経済状況や政治動向に対する関心が高くない傾向にある。現地（フィリピン）の生産者団体が共通して、生産者の直接生活条件のみならず、マクロな政治社会状況を視野に入れて活動を展開していることは対比をなしているといえる。

フェアトレード・タウン運動に関しては、2016年に自治体としてフェアトレード宣言をした浜松市の事例に関して情報収集を行った。中心となったフェアトレード団体、個人が、協同する範囲を、有機農業活動、環境保護活動など必ずしもフェアトレード、国際協力とは直接関係しない団体に広げたこと、SDGs や森林保護を志向する市行政への呼びかけを効率よく行ったことが短期に「宣言」まで到達した要因といえる。一方で、一般市民だけでなく、フェアトレード・タウン構想にかかわった団体の中でも、フェアトレードに対する理解や取り組み姿勢が浸透しているとは必ずしも言えない状況は課題であるといえる。しかし、フェアトレードを地域の活動と結び付けて活動の方向性を広げたこと、また行政を巻き込みながらも外枠である「タウン宣言」を行い、次に内実を図る戦略で動いたことは多くの教訓を残したといえる。

フェアトレード活動において生産側社会と消費側社会との関係が当然のことながら安定的で継続的なものでなければならない。実際に、消費側である先進国のパートナー、NGO、業者と安定的取引を行っている団体は継続して活発な活動を展開している。しかし、こうしたトランスナショナルな活動は、相互のアソシエーション活動を強化しているとは現段階では言い難い。消費側の先進国のフェアトレード活動が、製品販売に専念するか、あるいは幅広いマクロな視点が弱いために、生産側団体の意図を十分にくみ取っているとは言えないからである。

言説活動の観点からいえば、生産社会の諸団体は社会変革や公正の実現を組織者、直接生産者ともに、程度の差はあれ共有するが、一方、消費社会日本の場合、フェアトレード

推進者である NGO や業者は製品や生産者の背景を十分に理解しているものの、市場での販売活動と、フェアトレード概念一般の普及に力を入れているため、生産者の状況に関する言説活動は弱い。

近年のフェアトレード・タウン活動は、単にフェアトレード製品の取引をするのみならず、消費側の先進国社会住民のかかわる地域諸問題、諸活動を巻き込みながら展開する点で新しい取り組みである。その過程で、生産側団体が取り組んできた社会運動の経験と知見から学ぶところまでは展開していないが、今後そのような活動が見られれば、そこにアソシエーションとしての関係が構築される可能性があるといえる。それは今後の活動の展開をさらに観察する中で論じられる問題だといえる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

太田和宏・存千夏子他(2015)「コミュニティ組織型フェアトレードの可能性 - フィリピン SPFTC の事例」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』第8巻2号、査読なし、2015年、pp.97-103

〔学会発表〕(計 1 件)

Kazuhiro Ota, 2015, Challenge of Fair Trade: A Survival Strategy of the Rural Poor in the Philippines, a paper submitted to The Consortium for Southeast Asian Studies in Asia at Kyoto International Convention Center December 12-13, 2015.

〔図書〕(計 1 件)

太田和宏、法律文化社
「貧困の社会構造分析 なぜフィリピンは貧困を克服できないのか」2018年 全245頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

〔その他〕なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

太田 和宏 (OTA, Kazuhiro)

神戸大学大学院

人間発達環境学研究科・准教授

研究者番号：00273748

(2) 研究分担者

なし ()

(3) 連携研究者

なし ()

(4) 研究協力者

Lecturer Joel Ariate

(Third World Studies Center,

University of the Philippines)